

◆ Laval Virtual 2002 (VRIC) 参加報告 間瀬健二

ATR メディア情報科学研究所／名古屋大学

2002年6月17日～23日にフランスのラバル市で、Laval Virtual (Virtual Reality International Conference, VRIC) が開催された。今回は第4回目だということである。参加の機会を得たので、簡単に会議を紹介する。ラバルは、パリの西、ル・マンとレンヌの間に位置する、パリからTGVで1時間40分の、観光ガイドブックにも載っていない、とりたてて観光名所もない小さな町である。VRをはじめとする情報技術産業に力をいれているらしく、新しいベンチャー企業を始めようとしている現地技術者は、「この町は活気がある」といっていた。パリからの距離といい、岐阜を連想してしまうのは私だけではないようである。

会議は、チュートリアル、論文セッション、特別セッション、ポスター、企業展示、インタラクティブデモシステム展示などからなる。チュートリアルは4セッション、論文セッションはVR&Health, Applications, Mixed Reality, Interfaces, VR Outburstの5つのセッションが組まれた。各論文セッションでは、コロンビア大のSteven FeinerやFraunhofer InstituteのMartin Goebelなど著名な研究者を招待講演者として招き、3～5件の一般講演が続く。全体で一般論文発表は22件あった。企業展示は30社前後。我々を含むインタラクティブアート作品(Iamascope(ATR), Floating Words(東京電機大), Imagine the Net(ATR/IAMAS), Omnipresence(愛知県芸大), Bubbles(ZKM))が5件招待されて人気を呼んでいた。そのほか、インタラクティブデモ展示は、空軍がヘリコプターやジェット戦闘機のVRシミュレータを持ち込んだり、CAVEがあったり、多種多彩である。会期最後の土・日曜日にあてられた一般公開では、親子連れや子供同士でやってきて、いろいろなVRを体験する機会を楽しんでいた。

昨年は、この一般公開も含めて8000人の参加者があったということである。今年は、土日の一般参加者が約7000人、前半の論文、チュートリアル、企業展示などのプロフェッショナルの参加者が約2000人という発表があった。この、プロフェッショナルサイドの会議規模、特に論文発表はこじんまりとしている。

展示の隙間に垣間見た論文セッションは、40～50人くらいの聴衆で、少々拍子抜けした。内容も新しいデバイスやシステムの提案よりは、モデル化やモノ作りなどの発表が多いと感じる。論文発表のセッションは基本的に英語で、英仏の同時通訳サービスがあるが、そのほか展示やレセプションはフランス語である。

今回は、NTTにも滞在したことがあり日本語が堪能なEmmanuel Planas氏ご夫妻には、作品招待の時点から、輸送、現地の設営でもいろいろと助けて頂いた。紙面を借りて感謝申し上げる。



写真 Lavalの会場に展示された
空軍のヘリコプター・フライトシミュレータ

